

訪日客、2000万人突破

15年度、初の大台3月は201万人

日本政府観光局は20日、2015年度の訪日外国人客数が約2136万人と、初めて2000万人を超えたと発表した。アジアを中心に訪日客が増え14年度と比べ46%伸びた。政府は20年までに年間の訪日客数を4000万人に増やす目標を立てている。熊本県を中心にとする地震や最近の円高傾向が、順調だった訪日客数の動向に悪い影響を及ぼす懸念もある。観光庁の田村明比古長官は20日の記者会見で「アジア諸国を中心に中間層が増え、海外旅行の需要が伸びている」と述べた。15年度の訪日客の

訪日外国人客は2年で倍増した



円高で1人あたり消費は低迷



内訳をみると中国、韓国、台湾、香港の4カ国・地

域で全体の7割超を占める。同時に発表した今年3月の訪日客数は前年同月比32%増の201万人。単月としては過去最高を記録した。急増する訪日客の消費は、日本経済にとって数少ないけん引材料だ。観光庁がまとめた消費動向調査によると、1～3月の旅行消費額は9305億円と前年同期と比べ32%増えた。中国が3901億円と4割超を占める。中国人の「爆買い」による効果は地方にも及んでいる。ただ1～3月の訪日客1人あたりの旅行消費額は約16万2千円と前年同期比マイナスに転じた。とくに中国は11%減った。人民元に対し円高が進んだためだという。中国は海外で買った商品も中国内に持ち込む際に課税関税も引き上げており、影響の広がりを懸念する声がある。